



令和2年度 第1号 (通算306号)

一佐西学校だより

令和2年5月12日発行

【発行責任者】

長崎県立佐世保西高等学校長 宅 島 健 司

頑張るということ

校 長 宅島 健司

私の話で恐縮ですが、現役の作家でほぼ全巻読んでいるのは、村上春樹と大沢在昌の2人です。他に故人ですが、藤沢周平、開高健、山本周五郎くらいでしょうか。誤解されないように書いておきますが、小説以外でも評論やエッセイ、研究書や受験参考書等も読みます。村上春樹はあまりにも有名ですが、大沢在昌はハードボイルド、ミステリー作家です。「新宿鮫」シリーズの「無間人形」で直木賞を、「心では重すぎる」（佐久間公シリーズ）で日本冒険小説協会大賞を受賞しています。その他に「アルバイト探偵（アイ）」シリーズなどがありますが、その中の「女王陛下のアルバイト探偵」について記します。

主人公は冴木 隆 17歳、父親冴木涼介が代表となっている探偵事務所「冴木インヴェスティゲイション」で探偵のアルバイトをしている。この物語は、東南アジアの島国ライール（架空）の国王チャウモット3世がガンに侵され、余命半年と医者から宣言されている。その後継者候補の一人、日本人である第二夫人の娘ミオ17歳が日本留学の準備のためお忍びで日本を訪れるが、後継者問題等様々な事情から冴木親子がそのボディガードをするというもの。様々な事件に遭遇し、ミオを守るうちお互いが好意を抱き始める。ミオが誘拐された後、その消息をたどるべくライールの密林で敵に拉致されている時の隆のことは、

あざむ

「ミオのためじゃない。ミオのためだと思ったら自分を欺くことになる。ミオを思う、自分のために、今、僕はここにこうしている。命を賭けるのは、ミオへの僕の気持ちだ。ミオを好きな、自分の意志を貫くためだ。さもないければ、ミオに対し『してやっている』というまちがった考えが浮かんでしまう。それは、ひいては、ミオを恨む気持ちに発展するかもしれない。そうじゃない。そうではいけないのだ。僕は、ミオのためではなく、ミオを愛する、自分のために頑張っている。苦しさは、自分を試すものだ。それに負ければ、僕に彼女を愛する資格はない。国のちがいや、身分の差ではなく、それこそが、愛するための資格なのだ。」

大沢在昌の小説の中でも、洒脱で軽い文体で書かれた「痛快アクションノベル」と銘打っている作品ですが、本のこの部分に線を引いていて、今でも心に残っています。

また、今年2/26放送日本TV系「衝撃のアノ人」を見ました。長崎ゆめ総体2003年の女子バスケットボール優勝校は、桜花学園高校でした。主将でチームの司令塔だったのは山口県下関市出身の児玉美奈子さんです。インターハイでの試合を応援している父親の児玉典彦さんの姿が映し出されます。児玉さんは小学校の先生をしていました。

美奈子さんが大学4年生の時、典彦さんは下咽頭がんに侵されます。生存率10%と医者に言われ、茫然自失の中、治療方法を2つ提示されます。1つは手術、生存率は上がるが、声を失う。もう一つは放射線治療、声は失わないが、治療の効果は未知数。教員である典彦さんは、家族に病状を伝えた後、放射線治療を選択しようと思うと告げます。その時、長女的美奈子さんは、涙をぼろぼろぼろぼろ流しながら「どんな姿になってもいいから、お父さん生きていて」と訴えます。

典彦さんは、こう回想しています。「私はこの子のために生きなければいけない。そのために生きることを優先させようと決意しました。自分のことばかり考えていた私に、娘の涙が一筋の光を与えてくれました。自分以外の誰かの幸せのために頑張ろうとした時、乗り越えられないと思っていた壁を乗り越えられることを、この時、教えられたのです。」

手術は10時間にも及び、放射線治療のために6カ月の入院生活を余儀なくされました。厳しい闘病生活を経て、現在典彦さんは声を失ってはいますが、人口咽頭器を付け下関市の教育長として、のどを押さえながら「命の教育」の講演をしていらっしやいます。講演の中で「人は自分で頑張ろうとしても、なかなか頑張れません。でも、誰かのためには頑張れます・・・。」とおっしゃっていました。

詳しく知りたい人は、致知出版社「声を失っても伝えたいこと」を一読してください。

どちらのエピソードも真実を伝えているように思います。どちらも人が頑張らなければならない時に、あるいは頑張れない時に、参考になるのではないかと思います。その人がいるから頑張れる。その人を思うから頑張れる。そういう人を身近に持っていたいし、誰かにとって自分がそういう存在であるように努力したいとも思います。

さて、臨時休校が長引いて誰もが鬱々としている中、あなたは頑張れていますか。その人やそのことのために頑張れるというほどの思いを本気というのかもしれませんが。その思いが強ければ強いほど頑張れるのではないかと思います。本気になってほしいと心から願っています。

1学年より

『凡事徹底』

57回生の皆さん、入学おめでとうございます。令和初の佐世保西高校新入生の入学を心よりお祝い申し上げます。新型コロナウイルスの影響で開式自体が危ぶまれた入学式も無事に挙行でき、安堵したところではないでしょうか。その一方で、新入生と保護者の皆様におかれましては、新生活への不安と期待が入り混じった心境ではないかと推察いたします。

さて、入学してから間もなく実力考査、新入生研修、部活動編成、容儀検査など、慌ただしい毎日を送った新入生。そういった日々を送ることによって、いつの間にか佐世保西高生らしく成長していくことになるます。

やっと授業も再開となりました。少し先を見据えながら、一步一步、確実に踏みしめていきましょう。学年スローガンは凡事徹底です。日々の何気ない積み重ねが将来の結果を生み出すのです。さあ、57回生のスタートです！

【第1学年主任 萩原 広太】



2学年より

「努力の天才」たれ

56回生が入学して1年が経ちましたが、この1年間の西高生活は皆さんにとってどのようなものでしたか。高校生としての厳しい学習活動や部活動、初めて経験する学校行事など、皆さんの多くが純粋な気持ちと真摯な姿勢で取り組んでくれていました。今年の中堅学年として、新1年生の見本となるべき1年にしなければなりません。さらには次年度に向けて結果も求められます。そのためにもまずは、2年後のやりたい自分を具体的にイメージし、目指す目標を明確にしましょう。高い志が皆さんを動かす大きなエネルギーになるはずです。あとは「やる」のみ。そして継続は力なり！続けば本物になる！！です。どうか今年は「努力の天才」になってください。世の中は厳しい状況にありますが、高校生としてやるべきことが変わるわけではありません。237の「個」が光を放ちそれが共鳴しあって強い集団を作っていく。そんな56回生であってほしいと思います。

【第2学年主任 戸塚 邦彦】

3学年より

「雲上蒼天」～挑む Go! Go! Green Monsters!!

55回生が入学して2年が経ちました。大学入試改革初年度に立ち向かうことになる皆さんには入学当初から、学習だけではなく多くの経験を通して成長をしてほしいと伝えてきました。新入生合宿、平戸合宿、総合的な学習、ボランティア、短期インターンシップ、ベトナム研修旅行。様々な活動の中で人間的に成長していく皆さんを頼もしく感じる機会が数多くありました。

さて、今年度はいよいよその集大成の年となります。1ヶ月先のことも予測できない今私たちができることは、正しいと思うこと、やらなければいけないことを1つ1つ積み重ねるだけです。基礎基本の徹底、演習量の確保。3月に授業を実施することができなかった分、自分で意識して取り組まなければならないこともあります。今年度は今までの自分を越えて、自分史上最大の努力をしてほしいと思いますし、まだ見ぬ自分「未見の我」に出会う1年にしてほしいと思っています。1年次学年主任の佐藤先生の言葉「Go! Go!」、2年次学年主任三好先生の言葉「挑む」も合わせて55回生最後のスローガンとしました。緑学年の怪物たちが、大きな成長をして花を咲かせることを願っています。一緒に最後まで戦い抜きましょう。

【第3学年主任 峯 悦子】



新転任の先生方より

～これからよろしくお願ひします！～



小林英樹事務長先生 長崎明誠高校から赴任した小林です。初任校の佐世保工業高校以来、２７年ぶりの佐世保での勤務になります。 初任のころのように謙虚で若々しく佐世保西高校の発展のためにがんばりますので よろしくお願ひします。	今木達也先生 大村高校からまいりました、数学科の今木です。３年７組の担任と弓道部を担当させていただきます。佐世保市の南部（若葉町→若竹台町）の出身ですが、23年ぶりに地元に戻ってきました。町並みも随分様変わりしていて多少戸惑っています。西高での生活も慣れるまで時間がかかるかもしれませんが、文武両道をモットーに頑張っている皆さんのために、少しでも力になれるように頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。	理科の吉永大起先生は今年度新規採用で引き続き本校勤務です。理科の西平みなみ先生は育児休業が明けて本校勤務になります。 新しい先生方とともに、多くの思い出を作っていきましょう！
淵上透先生 五島高校からまいりました、英語科の淵上です。３年２組の担任とサッカー部を担当させていただきます。部活動にも学習にも一生懸命に取り組む西高生とともに学べることをうれしく思います。授業や部活動を通してたくさんの人たちと関わっていけることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひします。	相原勝斗志先生 今度２年１組の担任をすることになりました相原勝斗志と申します。教科は英語、部活動はソフトテニス部女子の顧問です。英語を学ぶのは難しいところもありますが、できるようになった時の喜びも大きいです。皆さんと一緒に楽しく授業をしたいと思っています。よろしくお願ひいたします。	【部活動成績報告】 ＜写真部＞ 第１２回長崎の農業・農村写真コンテスト入選畑中光 ＜その他＞ 令和元年度佐世保市教育委員会スポーツ表彰スポーツ優秀奨励賞日本拳法競技金子剛士 
上田恵先生 佐世保商業高校からまいりました、英語科の上田です。３年１組の副担任、ハンドボール部女子を担当することになりました。ドキドキです。生徒のみなさんが、英語をもっと勉強したらいいことありそうだなあと思ってもらえるように努めたいです。どうぞよろしくお願ひします。	大久保加奈子先生 宇久高校からまいりました。数学科の大久保加奈子です。２５年前自分が生徒として通った学校に、教師として勤めることになりました。校内を歩いていると高校生の頃を思い出し、懐かしく嬉しい気持ちになります。母校の生徒のみなさんのために精一杯頑張りたいと思っています。よろしくお願ひします。	
植島雄飛先生 上五島高校からきました植島です。主に２年生の生物を担当します。また、２年４組を担当します。新型コロナの影響で「例年通り」とは程遠い１年間になるはずですが。ともに頑張りましょう。部活動は男子バスケットボール部を担当します。どんなバスケットなのか、とても楽しみです。よろしくお願ひします。	相知颯太先生 島原翔南高校よりまいりました。教科は地歴公民科（地理）、部活動は陸上競技部、２年５組の担任です。まだまだ未熟ですが、生徒の皆さんの成長を手助けするために全力で勤務いたします。どうぞよろしくお願ひします。	
藤田美紀先生 私立の佐世保実業高校からまいりました。２年生の国語を担当します。しばらくぶりに普通科進学校で授業ができるので楽しみです。今回のように何が起こるか予測がつかない現代だからこそ求められる対応力と忍耐力を皆さんが身につけられるよう尽力したいと思ひます。これからよろしくお願ひいたします。	田中友香里先生 佐世保南高校からまいりました。教科は数学の担当で、部活動は女子バスケットボール部の顧問です。３ヶ月と短い期間ですが、佐世保西高校でしか経験できないことを全力でみなさんと一緒に経験し、楽しい学校生活を過ごしていきたいと思っています。よろしくお願ひします。	
馬場奏美先生 壱岐市立石田中学校よりまいりました、事務の馬場です。 初めての佐世保、初めての高校勤務でとてもワクワクしています。 勉強に部活動にと、様々なことに挑戦し、努力する生徒のみなさんを少しでもサポートできるよう頑張ります。よろしくお願ひいたします。	林真奈美先生 佐西のみなさん、こんにちは。２０年以上ぶりに故郷佐世保に帰ってきて、佐西で授業ができるようになったことをこの上なくうれしく思っております。今は世界中が大変な時期ではありますが、「神は乗り越えられる試練しか与えない」という言葉を胸にみなさんとの難局を乗り越えたいと思っています。意志さえあれば何とかなる！よろしくお願ひします。	「絶対大丈夫だよ」（by カードキャプターさくら）

